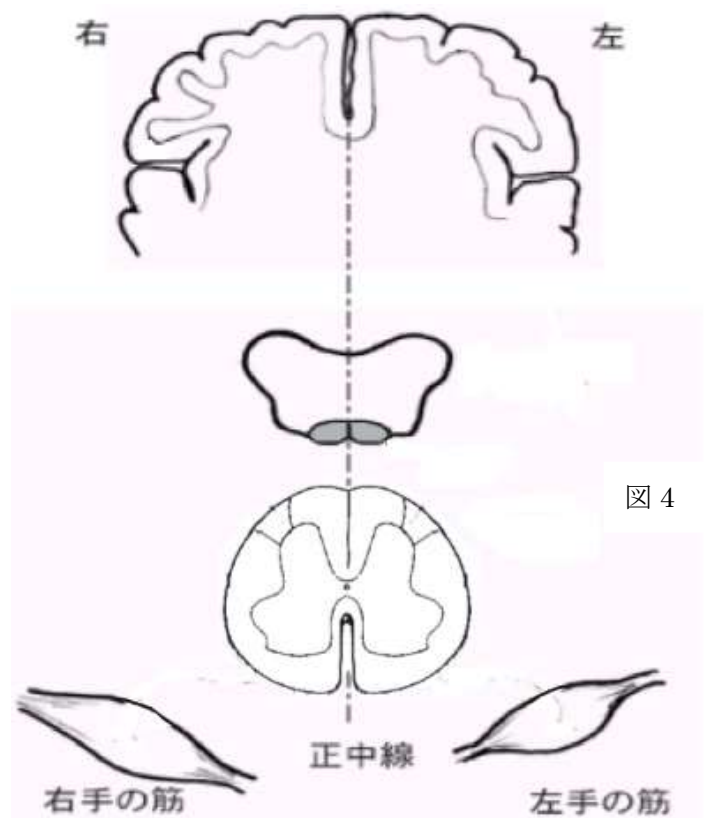


2) バビンスキー反射について、どのような人で見られるか、検査法と反射パターンを説明しなさい。

3) 運動野の手指領域の錐体路細胞は、手指筋に運動指令を伝える。右脳から手指筋の経路のうち最短の(シナプスの数が最も少ない)経路を、図4に書き入れなさい。右側の錐体路細胞はどこに存在するか、下行路は同側に存在するか対側か、シナプスは何個存在するか、脊髄ではどの部分を下行するか、(下位)運動ニューロンはどこに存在するかがわかるようにすること。また、以下の部位を図で指し示しなさい(内包、錐体、錐体交叉)。



IV. 次の各問の文章を読み、下線部①②がともに正しければ a、①のみ正しければ b、②のみ正しければ c、両方ともに間違っていれば d にマークしなさい。

(M14) 乳児をあお向けに寝かせ顔を右に向けた。反射的に伸展が見られるのは①左上肢と左下肢であり、この反射は②緊張性迷路反射の一種である。

(M15) 体幹に上から見て反時計回りの回転(左回転)を加え始めた場合、受容器細胞が脱分極する感覚受容器は①左水平半規管であり、受容器細胞が過分極する感覚受容器は②存在しない。

(M16) M15 の回転では、①左向きの眼振が生じる。カロリックテストでこれと同じ眼振を起こすには、右耳に②冷水を注入する。

(M17) 患者に、頭を動かさず眼を右に向けるよう指示した。右眼は右を向いたが、左眼は動かなかった。輻輳は出来た。この場合疑われるのは、①左の②動眼神経の異常である。

(M18) 患者は呼びかけでは開眼せず、痛み刺激で短時間開眼した。質問には応じず、「う〜っ、う〜」とうなり声を上げている。GCS を用いると、この患者の開眼状態は①2点、言語反応は②2点である。

(M19) 運動技能の習得は、非陳述記憶の中の①作業記憶に含まれ、関与する脳部位は②小脳である。

番号

名前

- (M20) 一般的な古典的条件付けに関与する脳部位は①小脳であり、条件情動反応に関与するのは②扁桃体である。
- (M21) 海馬の長期増強では、グルタミン酸受容体である①AMPA 受容体のブロックがはずれ、②Na⁺ イオンの大量流入が起こることがきっかけとなる。
- (M22) 両側海馬が損傷された場合の症状として、短期記憶は①失われない。また、損傷よりずっと前の長期記憶は②失われない。
- (M23) 神経筋接合部の異常で、筋線維のアセチルコリンに対する感受性が上昇し、ピクピクと引きつるような筋肉の収縮が起こる現象を①痙縮と呼び、②錐体路障害の患者で見られる。
- (M24) 深い睡眠状態の脳波では①高振幅徐波が見られ、②脳死でも同様の脳波が見られる。
- (M25) 誘発脳波の一種である①聴性脳幹反応は脳死の判定に用いられ、例えば脳死状態で末梢神経のみが活動できる状態では②2波以降のピークが見られなくなる。
- (M26) 脳波の①β波の周波数はおおよそ 10 Hz であり、②覚醒開眼状態で観察されることが多い。
- (M27) ①中脳黒質緻密部のドパミン細胞は報酬系に含まれ、薬物依存に関わることが多い。この細胞は、大脳基底核の②尾状核に軸索投射し、快感をもたらす。
- (M28) うつ病では、恐怖など負の情動にかかわる神経核である①側坐核に②活動上昇が見られる。